

日南市埋蔵文化財調査報告書 第12集

平成11年度

日南市内遺跡発掘調査概報

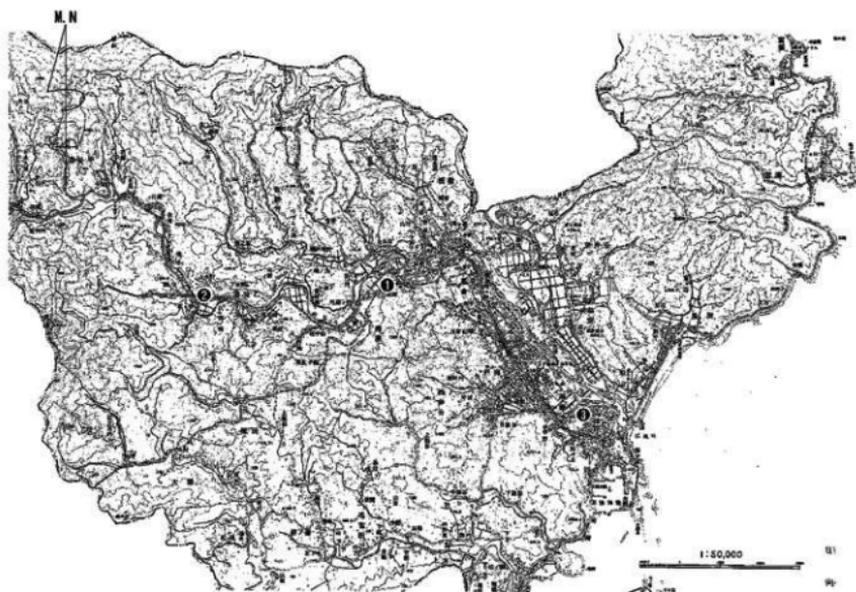
2000.3

日南市教育委員会

平成 11 年 度

日南市内遺跡発掘調査概報

1. 上城跡遺跡
2. 永野遺跡
3. ふれあいコミュニティセンター建設予定地



2000.3

日南市教育委員会

上城跡遺跡全景



【株式会社・サーベイ森氏撮影】

序

この報告書には、日南市教育委員会において平成11年度に実施した埋蔵文化財の有無を確認するための発掘調査の概要を記載しております。

日南市内においては、ここ数年間毎年平均5～6件の開発行為に伴う確認調査を行ってきました。開発の傾向としては、公共機関に関するものはもちろん、電気や道路、病院に関するものや情報通信分野の拡充に伴う大手3社による携帯電話の無線基地局の整備に関する開発などが目立っています。

こういった状況のもと、平成11年度には、市営の上城公園拡張工事に伴う確認調査や本市教育委員会で建設予定のふれあいコミュニティセンター建設予定地など、合計3ヶ所の試掘調査を実施することができました。

本市教育委員会において、埋蔵文化財保護の立場から、各種開発行為に先立ち試掘調査を実施することができたことは、非常に有意義なことだと思われれます。また、今後市内で行われるであろう多くの各種開発行為に伴う未確認の埋蔵文化財についても、開発側等との十分な情報交換や協議などをすすめ、その保護に資するよう努力を重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、調査を実施するにあたり、埋蔵文化財の保護に格別のご配慮とご理解を賜りました各開発関係者各位並びに地元の方々に厚くお礼を申し上げます。また、調査にあたりましては、ご多忙の中、ご指導・ご助言をくださいました宮崎県教育庁文化課を初め、県埋蔵文化財センターの方々にお礼を申し上げます。また、現地調査にご協力いただいた作業員の方々にも重ねてお礼を申し上げます。

平成12年3月

日南市教育長 倉山久信

例 言

1. 本書は、平成11年度に日南市教育委員会が各種開発行為に先立ち実施した埋蔵文化財確認のための発掘調査の概要である。
2. 掲載した調査地は、日南市大字楠原字北平の上城霊園拡張工事に伴う造成予定地、日南市大字酒谷字永野11番地のNTTドコモ携帯電話無線基地局建設予定地、日南市木山2丁目3858番地のふれあいコミュニティセンター建設予定地の合計3ヶ所である。

3. 調査主体 日南市教育委員会

	教 育 長	倉山 久信	
	社会教育課長	柳田 功	
	補佐兼文化係長	岡本 武憲	
庶務担当	教育総務課主事	崎田 弘子	
調査担当	主 事	的場 文明	
調査作業員		鎌田 留次郎	鎌田 和枝
		黒木 正男	黒木 カヨ
		田畑 フミ子	前田 マサ子
		福田 スエ	大田原 俊太郎
		谷口 キヨ子	杉元 早苗
		杉元 香代	平川 フミヲ
		金丸 恵美子	他
整理作業員		谷口 キヨ子	貴島 芳栄
		山室 光	松岡 亮一 他

4. 現地調査は、的場が行った。
5. 実測及びトレースは、的場、鎌田（留）、谷口が行った。
6. 本書の編集執筆は、的場が行った。
7. 各トレンチについての方位は磁北、レベルは、海拔高にて示した。

本文目次

1. 上城跡遺跡	
位置と環境.....	2
調査に至る経緯.....	2
調査の結果.....	2
2. 永野遺跡	
位置と環境.....	8
調査に至る経緯.....	8
調査の結果.....	8
3. ふれあいコミュニティセンター建設予定地	
位置と環境.....	12
調査に至る経緯.....	12
調査の結果.....	12

挿図目次

第1図 上城跡遺跡位置図.....	1
第2図 上城跡遺跡トレンチ位置図.....	1
第3図 上城跡遺跡トレンチ土層断面図（その1）.....	3
第4図 上城跡遺跡トレンチ土層断面図（その2）.....	4
第5図 永野遺跡位置図.....	7
第6図 永野遺跡トレンチ位置図.....	7
第7図 永野遺跡トレンチ土層断面図.....	8
第8図 ふれあいコミュニティセンター建設予定地位置図.....	11
第9図 ふれあいコミュニティセンター建設予定地トレンチ位置図.....	11
第10図 ふれあいコミュニティセンター建設予定地土層断面図.....	12

図版目次

図版1 上城跡遺跡近景.....	2
図版2 上城跡遺跡トレンチ土層断面（その1）.....	5
図版3 上城跡遺跡トレンチ土層断面（その2）.....	6
図版4 永野遺跡トレンチ№1土層断面及び作業風景.....	9
図版5 永野遺跡トレンチ№2土層断面及び作業風景.....	10
図版6 ふれあいコミュニティセンター建設予定地全景及びトレンチ土層断面.....	13
図版7 ふれあいコミュニティセンター建設予定地トレンチ土層断面及び作業風景.....	14

上 城 跡 遺 跡

上城跡遺跡位置図



第 1 図

上城跡遺跡トレンチ位置図



第 2 図

【位置と環境】

上城跡遺跡は、日南市大字楠原字北平に位置し、既に遺跡の大半は墓地として既に整備されていた。今回確認調査を実施した上城跡遺跡は、周知の遺跡として指定してある丘陵地の西側の約4,000㎡であった。酒谷川を挟んで、北側に位置する鉄肥城のちょうど対面に位置する上城跡遺跡のほとんどは、既に墓地として整備されており城の主要な部分と思われるエリアは、残存していない状況であった。上城跡については、平部嶺南の「日向地誌」に記録を求めることができ、それによると初代鉄肥藩主伊東祐兵の父義祐を弔うために創建された昭眼寺や吉野方にあった曹洞宗安心軒を移し、真宗に改めた安心寺などが存在したとの記録が残っている。

【調査に至る経緯】

今回の調査は、上城霊園拡張工事に伴う埋蔵文化財の有無を確認するためのものであった。調査対象地は、戦後畑地として利用された後に杉が植林された場所であった。調査では、トレンチの設定及び掘削が可能な場所で、遺跡の規模や性格ができるだけ正確に把握できるように5ヶ所を設定した。トレンチの大きさは、1.5メートル×3.0メートルもので、合計5ヶ所のトレンチすべてにおいて、縄文土器片、弥生土器片、陶磁器片などが多数検出された。また、No5のトレンチでは、近世とみられる皿のほぼ完全なものや柱穴の跡が克明に確認された。

【調査の結果】

今回の調査の結果、すべてのトレンチで遺物が確認でき、遺構の存在も充分予想されるので、霊園拡張工事にあたっては、本調査の実施が必要であると考えられる。

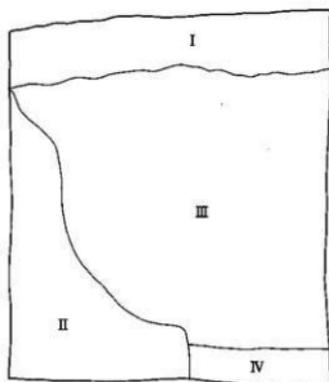
上城跡遺跡近景



図版 1

上城跡遺跡トレンチ土層断面図 (その1)

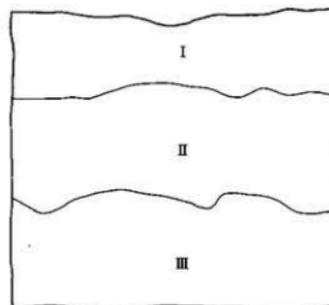
L=48.00m



トレンチ No. 1

- I : 10YR 3/1 黒褐色 遺物包含層
 II : 10YR 5/3 にぶい黄褐色 (攪乱層)
 III : 10YR 6/8 明黄褐色 火山灰層
 IV : 10YR 6/4 にぶい黄橙色

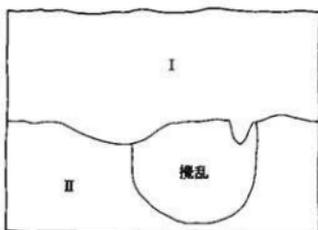
L=46.20m



トレンチ No. 2

- I : 10YR 3/1 黒褐色 遺物包含層
 II : 10YR 4/4 褐色 粘質土
 III : 10YR 6/8 明黄褐色 火山灰層

L=48.50m



トレンチ No. 3

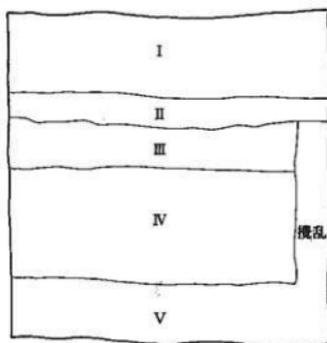
- I : 10YR 3/1 黒褐色 遺物包含層
 II : 10YR 6/8 明黄褐色 火山灰層



第 3 図

上城跡遺跡トレンチ土層断面図 (その2)

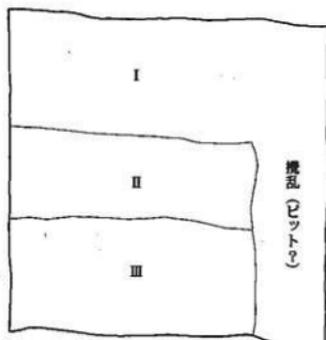
L=46.90m



トレンチ No.4

- I : 10YR 3/1 黒褐色 遺物包含層
- II : 10YR 6/8 明黄褐色 アカホヤ層
- III : 10YR 3/4 暗褐色 遺物包含層
- IV : 10YR 4/4 褐色 III層より硬い粘質土
- V : 10YR 2/2 黒褐色 粘質土

L=48.20m



トレンチ No.5

- I : 10YR 3/1 黒褐色 遺物包含層
- II : 10YR 5/8 黄褐色
- III : 10YR 6/8 明黄褐色 アカホヤ層



上城跡遺跡トレンチ土層断面（その1）



トレンチ No. 1



トレンチ No. 2



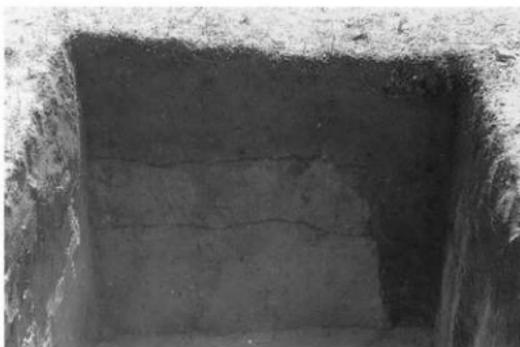
トレンチ No. 3

図版 2

上城跡遺跡トレンチ土層断面（その2）



トレンチ No.4



トレンチ No.5

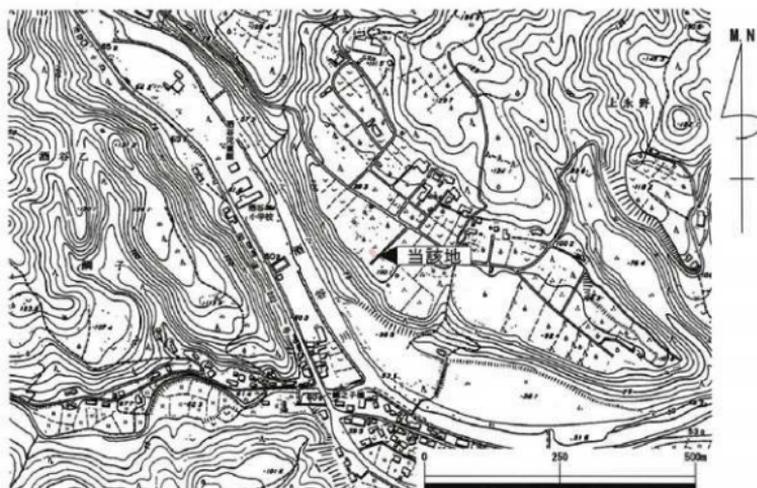


トレンチ No.6
遺物出土状況

図版 3

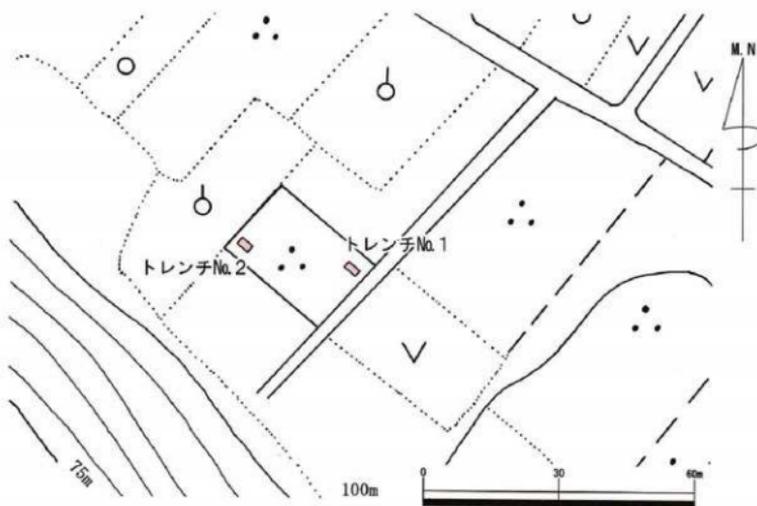
永 野 遺 跡

永野遺跡位置図



第 5 図

永野遺跡トレンチ位置図



第 6 図

【位置と環境】

永野遺跡は、日南市大字酒谷字永野11番地に位置している。同遺跡は、酒谷川の両岸に広がる河岸段丘上に位置する多数の遺跡のひとつである。約40メートルほどの丘陵地に広がる永野遺跡は、標高約40メートル程で、ほとんどのエリアは茶畑として利用されている。この遺跡に隣接して迫間遺跡、下原遺跡、今別府原遺跡などが存在しており、酒谷川を挟んだ対岸には、鯛ノ子遺跡も存在している。また、そのほとんどの遺跡は縄文時代の遺跡であり、永野遺跡もその時代の遺跡の存在が予想された。

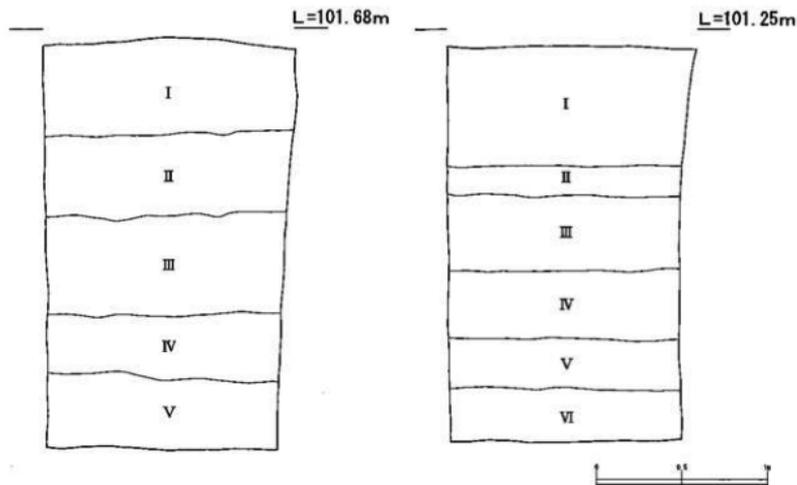
【調査に至る経緯】

今回の調査は、NTTドコモの携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財の有無を確認するためのものであった。調査対象地は、現在茶畑として利用されていた。そのため、土地所有者の方の同意の上、お茶の木を何本か伐採した後に調査を行った。調査では、建設対象地内に遺跡の規模や性格ができるだけ正確に把握できるように2ヶ所のトレンチを設定した。トレンチの大きさは、1.5メートル×3.0メートルのもので、2ヶ所のトレンチ両方から、縄文土器片などが多数検出された。また、遺物包含層も3層確認された。

【調査の結果】

今回の調査の結果、2ヶ所のトレンチで遺物が確認でき、遺構の存在も充分予想されるので、携帯無線基地局建設にあたっては、本調査の実施が必要であると考えられる。

永野遺跡トレンチ土層断面図



トレンチ No.1

I : 10YR	2/1	黒褐色	耕作土
II : 7.5YR	3/2	黒褐色	IIIより強い粘質
III : 10YR	1.7/1	黒色	粘質土 遺物包含層
IV : 7.5YR	5/8	暗褐色	アカホヤ層
V : 7.5YR	2/1	黒色	5層中一番強い粘質土 遺物包含層

トレンチ No.2

I : 10YR	2/1	黒褐色	耕作土
II : 7.5YR	2/1	黒色	耕作土混じり
	7.5YR	3/2	黒褐色のブロックを含む
III : 7.5YR	3/2	黒褐色	IIIより強い粘質
IV : 10YR	1.7/1	黒色	粘質土 遺物包含層
V : 7.5YR	5/8	暗褐色	アカホヤ層
VI : 7.5YR	2/1	黒色	5層中一番強い粘質土 遺物包含層

第 7 図

永野遺跡トレンチNo.1 土層断面及び作業風景



トレンチ No. 1



作業風景

図版 4

永野遺跡トレンチNo.2 土層断面及び作業風景



トレンチ No.2



作業風景

図版 5

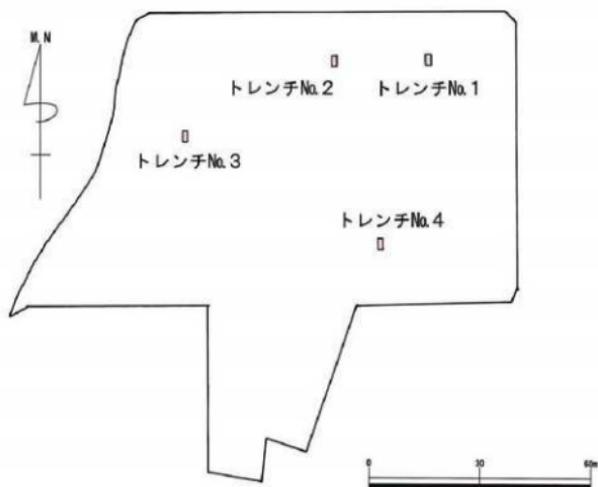
**ふれあいコミュニティセンター
建設予定地**

ふれあいコミュニティセンター建設予定地位置図



第 8 図

ふれあいコミュニティセンター建設予定地トレンチ位置図



第 9 図

【位置と環境】

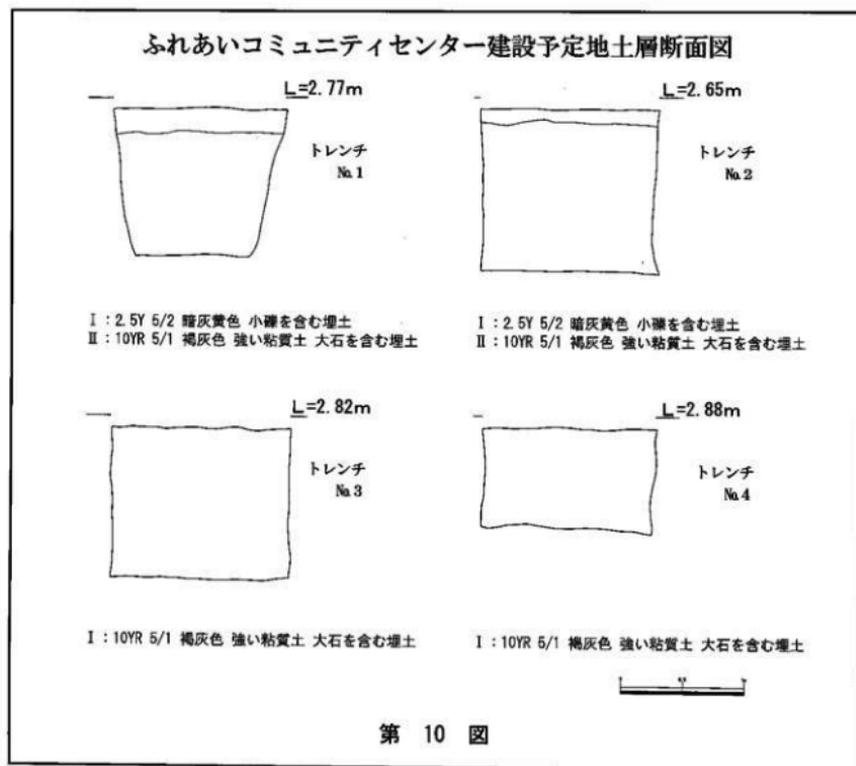
ふれあいコミュニティセンター建設予定地は、日南市木山2丁目3858番地に位置している。同建設予定地は、旧県立日南病院の跡地で病院建設以前は水田として利用されていたようである。真東には、堀川運河が位置しており、太平洋まで1.2キロほどの海岸に近い平野である。また、ふれあいコミュニティセンター建設予定地のすぐ西側の丘陵地には、新しい県立日南病院が存在するが、同時に影平遺跡の存在する丘陵地でもある。平成7年度には、新県立日南病院へのアクセス道路整備の際に、本調査を実施した。同調査では、日南市では、初めての弥生時代の集落を発見することができた。

【調査に至る経緯】

今回の調査は、ふれあいコミュニティセンター建設に伴う埋蔵文化財の有無を確認するためのものであった。調査対象地は、平成7年度に本調査を実施した「影平遺跡」が存在する丘陵地の東側縁辺部にあるため遺跡の存在も予想された。調査では、建設対象地内に遺跡の規模や性格ができるだけ正確に把握できるように5ヶ所のトレンチを設定した。トレンチの大きさは、1.5メートル×3.0メートルのもので、5ヶ所のトレンチでは、遺物や遺構の検出に努めた。

【調査の結果】

今回の調査の結果、5ヶ所のトレンチのいずれからも遺物も遺構も検出されなかった。今回の調査結果は、旧県立日南病院の建物の跡がふれあいコミュニティセンター建設予定地になっていることで、既に地下が攪乱されていることやそれ以前は、水田として利用されていたことが考えられる。



ふれあいコミュニティセンター建設予定地全景及びトレンチ土層断面



全 景



トレンチ No. 1



トレンチ No. 2

図 版 6

ふれあいコミュニティセンター建設予定地トレンチ土層断面及び作業風景



トレンチ No.3



トレンチ No.4



作業風景

図版 7

調査にご協力いただいたみなさん



岩永 典良 黒木 正男 大田原 俊太郎 谷口 キヨ子 鎌田 留次郎
 山室 光 鎌田 和枝 平川 フミヲ 金丸 恵美子 杉元 香代
 田畑 フミ子 黒木 カヨ 福田 スエ 前田 マサ子 杉元 早苗

整理作業にご協力いただいたみなさん



谷口 キヨ子 松岡 亮一 貴島 芳栄

日南市埋蔵文化財調査報告書 第12集

平成11年度 日南市内遺跡発掘調査概報

2000年3月

編集発行 日南市教育委員会
☎887-8585 日南市中央通1丁目1番地1
☎(0987) 31-1145

印刷 ㈱日南光文堂印刷
☎887-0032 日南市大字益安772-1
☎(0987) 23-2525

